

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 三郷市立前川中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

- 期 日 : 平成30年6月10日 (日)
- ク ラ ス : 2年1組 (35名)、2年2組 (36名)
- オリンピアン : 長岡 千里 先生 (ボブスレー)



■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、2時間を通してオリンピックバリュー (エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト) について学ぼうと授業の目的を確認。
- ・運動する際に、準備がいかに大切であるかを説明した後、長岡先生主導で準備体操を行った後、クラス全員で長岡先生を交えてじゃんけん勝ち抜きを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを実施。90秒間に跳ぶことができた合計回数を競う。途中引っ掛かっても続きから数えることとした。各回終了後、跳んだ回数や作戦タイムで話し合った内容を発表。長岡先生から1回でも多く跳ぶための作戦を考えることをアドバイスし、結果だけではなく、どのような気持ちで臨むかが大切であると伝える。
- ・クラスで全員跳びを実施。

4. まとめ



- ・チームやクラス全員が団結し、集中して臨んでいたと伝え、何回跳べたという結果以上に、1人1人がどんな気持ちで臨んだかが大切だと改めて伝え、次の座学の授業ではさらにオリンピックバリューについて詳しく学ぼうと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・長岡先生が出場したトリノ大会の映像や実際に試合で使用したユニフォームやスパイクを見せながら、ボブスレー競技について紹介。
- ・3つのオリンピックバリューは、学校の教育目標（「自学／自ら学び自ら考える生徒・親愛／自己を愛し友を愛し思いやりを持つ生徒・鍛錬／ルールやマナーを守り、よりよい生活をめざす」）と同じ考えであり、すでに皆の日常にもある考えだと伝える。

3. グループワーク



- 発問①：運動の時間に考えた作戦を書き出してみる。
- 発表①：縄の持ち方や長さを工夫した、跳ぶ間隔を工夫した、縄の中心で跳ぶことを意識した(エクセレンス)、皆で声を出しリズムを合わせる(フレンドシップ)等の意見が挙げられた。
- 発問②：その結果を受けて感じたことを書き出してみる。
- 発表②：記録が伸びて嬉しかったがもっと跳べると思った、縄を回す速さを変えて回数が伸びたがもっと伸ばせると思った(エクセレンス)、全員で声を出したことで達成感を味わえた(フレンドシップ)、作戦が結果に繋がりが嬉しかったが他のチームに負けてしまい悔しさも感じた(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・運動の時間に伝えた通り、勝負に勝つことよりも、どのような気持ちで臨むかが大切で、楽しい気持ちだけではなく、悔しい気持ちも大切である。学校生活の中で経験する様々なことがオリンピックバリューにつながっていると実感してほしいと伝える。
- ・長岡先生は中学2年の時に陸上競技部に所属していて、先生自身、様々なことに興味を持たなければボブスレーに出会うことができなかった。これからの人生の中には様々な選択肢があるので、常に「興味のアンテナ」を張っていてほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日：平成30年6月11日（月）

■ク ラ ス：2年3組（36名）

■オリンピアン：伊藤 華英 先生（水泳・競泳）



■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、3つのオリンピックバリューについて、エクセレンス＝自分なりのベストを尽くすこと、フレンドシップ＝友情、思いやりを持つこと、リスペクト＝お互いを尊敬し合い、できることとできないことがあるのをそれぞれが認め合うことと意味を説明。
- ・オリンピックシンボルに込められた意味を説明し、今日は2時間を通してオリンピックバリューを意識しながら取り組んでほしいと伝え、準備体操へ移る。
- ・準備体操後、クラス全員でじゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを実施。90秒間に跳ぶことができた合計回数を競う。途中引っ掛かっても続きから数えることとした。各回終了後、跳んだ回数や作戦タイムで話し合った内容を発表。各チームの作戦として「回し手を変更した」等の意見が挙げられた。
- ・クラスで全員跳びを実施。

4. まとめ



- ・授業の冒頭に説明したオリンピックバリューを意識して参加できたかを確認。運動の時間で学んだことを最低2つ覚えておくよう伝え、目的を持って参加することで無駄な時間を過ごすことがなくなると話す。
- ・次の座学の時間では皆に考えたり発表したりしてもらおうので、自信を持って発表してほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・自身の経験を交えながら、オリンピックバリューについて説明していくと、授業の目的を確認。
- ・写真を見せながら、競技について紹介し、北京大会には背泳ぎで出場したが、翌年の世界水泳選手権大会で膝を脱臼した影響で、ロンドン大会には自由形で出場したと話す。
- ・伊藤先生にとってのオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える

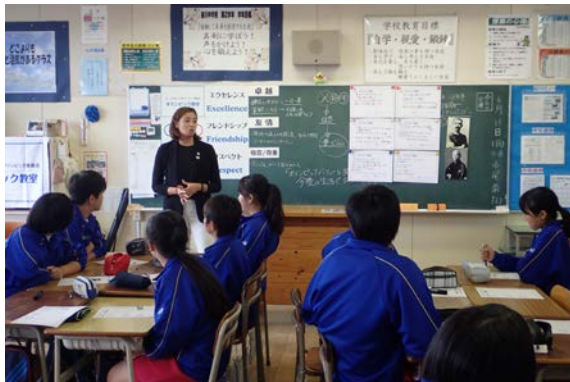


3. グループワーク



- 発問：今後の生活にオリンピックバリューがどう活かせるか書き出してみる。
- 発表：自分から行動を起こす、何事にも諦めずに挑戦する、ベストを尽くす、練習を毎日継続する、嫌いな食べ物でも残さず食べる(エクセレンス)、クラスの友情を深める、仲間を大切にする、周囲とコミュニケーションをとる、ライバルを大切にする(フレンドシップ)、上手な人を見習う、誰にでも平等に接する、大きな声で挨拶する、相手の良いところを見つけ尊重し合う、思いやりを大切にする(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・皆は多くの可能性を秘めているので、あらゆる事に興味を持ち、人と関わり、意見を聞き、様々な価値観に触れて、諦めず様々なことに挑戦した上で、自分がどのような人生を歩みたいか、ビジョンを持って進んでほしいと伝える。
- ・オリンピックは出場している選手だけのものではなく、皆自分事としてオリンピックに興味を持ってほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日：平成30年6月11日(月)
- ク ラ ス：2年4組(36名)、2年5組(36名)
- オリンピアン：高尾 千穂 先生(スキー・フリースタイル)



■授業のながれ：運動の時間(3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、オリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)について簡単に説明し、今日は2時間を通してオリンピックバリューをテーマにオリンピックについて学んでいくと授業の目的を確認。
- ・運動の時間は、「ベストを尽くす」「協力する」「目標・目的を持つ」という3点を意識するよう伝え、準備体操へ移る。
- ・3チームに分かれてタッチ鬼を実施した後、クラス全員でジャンケン勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを全3回実施。90秒間に跳ぶことができた合計回数を競う。途中引っ掛かっても続きから数えることとし、各回終了後跳んだ回数や作戦タイムで話し合った内容を発表。高尾先生から、記録が伸びたのはしっかり作戦を考えて実行した結果であり、とても重要なことなので今後も意識してほしいと伝える。
- ・クラス全員跳びに挑戦。

4. まとめ



- ・授業の冒頭で意識するよう伝えた「ベストを尽くす」「協力する」「目標・目的を持つ」の3つが実践できたか確認し、特に全員跳びでは、皆が心を1つに一致団結できていたことがとても良かったと伝える。
- ・座学の時間では、さらに詳しくオリンピックバリューについて考えようと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・オリンピックバリューとはオリンピックが大切にしている考え方であり、座学の時間では高尾先生の経験を通してオリンピックバリューについて説明するので皆にもバリューを知ってほしいと授業の目的を確認。
- ・ソチ大会の映像やスキー板等を見せながらスキー・スロープスタイルについて説明。
- ・高尾先生にとってのオリンピックバリューを伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：目標に向かって頑張っていること、頑張りたいことを考える。
- 発表：勉強の仕方を工夫する、苦手なことに挑戦する、相手に負けないためにチャレンジする、自分の長所を伸ばす(エクセレンス)、仲間とコミュニケーションをとる、声を掛け合い、チーム力を高める、お互いに教え合う(フレンドシップ)、支えてくれる家族や友達に感謝する、部活ができる環境に感謝する、ライバルも尊重する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・高尾先生は選手時代にオリンピックバリューを意識したことはなかったが、振り返るとオリンピックバリューに当てはまることがたくさんあった。スキーを本格的に始めたのは遅かったが、常に何事にも目標を持って挑戦することを意識していた結果オリンピックに出場することができた。皆も様々なことに興味を持って挑戦してほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集合写真

2年3組



2年4組





■ 集合写真

2年5組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



■ 修了書贈呈

